

---

# 核兵器なんてなくなればいいのに

野鶴善明

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

核兵器なんてなくなればいいのに

### 【Nコード】

N2401I

### 【作者名】

野鶴善明

### 【あらすじ】

私の祖父は被爆者でした。広島山向こうに駐屯していた祖父の部隊は原爆投下直後の広島へ救援におもむき、その時、祖父は被爆したのです。祖父の戦友には原爆症で苦しんだ人がすくなくらいたそうです。哀しいことです。オバマ大統領のノーベル平和賞受賞を祝い、核兵器廃絶をすこしでも応援できればと思って書いた手紙形式のエッセイです。

## 前編

オバマ大統領。ノーベル平和賞受賞、おめでとうございます。

私の祖父は被爆者でした。一九四五年八月六日、あの日、祖父は広島山の向こうに駐屯している陸軍の部隊にいました。赤紙で徴兵された名もない一兵士でした。

アメリカ軍が広島に原爆を投下した後、祖父の部隊は山を越えて広島市内へ入り、救助活動を行いました。その時、被爆したのです。当時の広島の様相を祖父は語ってくれませんでした。子供の頃の私は、どんな様子だったのか教えて欲しいと何度かせがんでみたのですが、祖父はただ黙って首を振るだけでした。あまりの地獄に、思い出したくもなかったのでしょう。

小学生の時、私は修学旅行で広島へ行き、原爆資料館を見学しました。

展示物ケースを見てまず驚いたのは、どろどろに溶けた痕あとのあるコップでした。原爆が放ったあまりの高熱のせいで、溶けたソフトクリームのようにひしゃげてしまったのです。それから、原爆の爆発で人が一瞬にして蒸発し、その人の影だけが石段に焼きついている写真。人が消えて影だけが残る。こんな恐ろしいことがあるでしょうか。どうしたらこんなことになるのだろうと不思議でたまりませんでした。子供心に原爆の威力を思い知らされました。

次にショックだったのは、原爆投下後の広島の様相や被爆者の様子を撮影したフィルムでした。真っ黒に丸こげになった死体。グリルへ入れたまま忘れてしまい、黒こげにしてしまったメザシのようにちぢれていました。この人は全身から煙を吹いて死んだんだ。そう思うとぞっとしました。学校へあがる前の幼い子供の耳からは、ぱたぱたと血が垂れ続けています。その子は放射能によって血小板が破壊され、もう血をとめることができなくなったのだそうです。子供のそばでは、母親がつきつきりで垂れる血を何度も何度も拭い

てあげていました。どの人もみじめで、苦しそうでした。多くの人がひどい火傷を負い、なかには化膿した傷口に蛆うじがわいている人もいました。二十数年前に一度だけ見たフィルムですが、今でもよく覚えています。

今から思えば、死んだ祖父が広島の様を語りたがらなかったのもわかる気がします。展示物やフィルムを見ただけで身の毛もよだつような恐ろしさを感じるのですから、実際にその場にいた人間にとつてはできるだけ忘れてしまいたいことなのでしょう。

私の祖父は「被爆者健康手帳」を持っていました。これは、国の認定を受けると原爆症に関する医療費やその他の支援を受けられるというものです。祖父は原爆症にはかかりませんでした。祖父の戦友にはやはり原爆症を発症してしまう人もかなりいて、何度も癌におかされたり、白血病になったり、ほかの難病や奇病にかかる人がいたと聞きます。祖父はたまたま発症しなかっただけで、原爆症になつてもおかしくありませんでした。祖父は戦友会の世話役を務め、戦友が原爆症になると役所へ行つて交渉したりしていたそうです。今でも多くの人が原爆症で苦しんでいます。数多くの人々の人生が原爆によつて損なわれてしまったのです。広島、長崎へ行つて自分の目で確かめてみなければわからないことがあります。実感できないことがあります。ご多忙とは存じますが、ぜひ一度訪問していただければと思います。

## 後編

あなたの大統領就任演説を読んだとき、私は目を見開かされる思いがしました。人類の理想を語る政治家がまだいる。そう思うと心強くもなりました。あなたが就任演説で述べたような理想は、『スタートレック』シリーズのようなテレビドラマのなかだけで語られるものだとばかり思いこんでいたからです。息苦しい思いをしながら生きてきた人間にとって、理想は希望です。未来を感じることができます。ほつと息がつけるような心持ちになりました。

とはいえ、失礼を承知であえて述べさせてもらえば、あなたの演説にはうさん臭さも感じます。それは就任演説でも、核廃絶に関するプラハ演説でもそうですが、やはり「力をもったアメリカこそ正義だ」という考えから離れられないように思えてならないのです。そして、敵と味方をはつきりわけ、身内になった国にはよくするが、自分のルールにしたがわない敵は力でねじふせようとしているように思えてならないのです。あなたの語る理想の背後には、いわば「情け深い帝国主義」とでも呼びたくなるような力本位の考え方がちらついているようにどうしても感じてしまうのです。

人類の理想を語りながら、核兵器廃絶を語りながら、その一方でアフガニスタンで戦争を続け、市井に暮らす人々を苦しめる理由がわかりません。自国の都合のためにアフガニスタンやイラクを利用したのはアメリカ自身ではありませんか？ テロリストを援助して育てたのはアメリカ自身ではありませんか？ アメリカこそ世界最大のテロ国家だという批判の声にあなたはどんな回答をなさるつもりでしょうか？ あなたは愛を語る宗教家ではなく、現実と取り組む政治家ですから、戦争を続けることはいたしかたないことなのでしょう。ほかのアプローチの方法はないものでしょうか。もちろん、現実とはなまやさしいものではなく、理想を実現するための道のりは気の遠くなるほど長いものだとしていますが。

政治の世界は、とりわけ、国際政治の世界は、私のような平凡な市民にはとうてい理解のおよばない複雑でこみいったものなのでしょう。ですが、平和の推進、核兵器の廃絶にあたっては、ぜひ、自国の利害や国際間の力関係の都合ではなく、原爆でなくなつた人々や、原爆症で苦しんだ人々の悲しみを出発点に考えていただきたいと思います。彼らは広島や長崎のような悲劇が繰り返されることを望んではいないでしょう。おそらく、原爆症を発症した戦友を見守りつづけた私の祖父もそうだと思います。日本人的な発想かもしれませんが、それこそが彼らの魂を鎮め、亡くなつた方々へ報いる唯一の道だと考えるからです。

理想を語るあなたを愚か者呼ばわりする人がいるかもしれませんが、この世は斬るか斬られるか、甘いことを言っていたのでは殺されてしまふとそのような考える人々にしてみれば、あなたの理想はたわごとにしかな聞こえないことでしょう。ですが、私は理想こそが人類を進歩させ、向上させるのだと信じています。愛と理性に裏づけられた理想こそが、過ちの繰り返しから抜け出すためのよすがとなり、人類を輝かしい存在へ引き上げるのだと信じています。核廃絶の道においてはさまざまな障害や困難にぶつかるでしょうが、多くの人々があなたを応援していることを忘れないでください。普通に暮らす人々は誰も核戦争など望んでいないのです。

末尾になりましたが、お体を大切になさり、今後ともご活躍されることをお祈り申し上げます。おめでとうございました。

世界の片隅で生きる一日本人より。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2401i/>

---

核兵器なんてなくなればいいのに

2010年10月8日15時14分発行